

八幡平市

シルバーカラオケで歌声・人生いきいき



すてきな衣装で着飾り、天童よしみの「枇杷の実のなる頃」を生き生きと合唱する西根地区シルバーカラオケ同好会の皆さん

60歳以上の会員で活動する西根地区シルバーカラオケ同好会（工藤正雄会長）は2月3日、西根地区市民センターでいきいきカラオケ発表会を開きました。

発表会は、今回で15回目。会員たちは練習の成果を歌声に込め、43曲を熱唱しました。最初に、天童よしみの「枇杷の実のなる頃」を出演者全員で合



会員たちの熱唱にたくさんの拍手が送られました

唱。また、大更の工藤ヤエさんは、島津亜矢の「お吉」を、せりふ入りで披露しました。

同好会は、平成4年に始まった旧西根町の生涯学習講座をきっかけに、受講生たちで活動を継続・発展させようと5年に発足。カラオケを楽しむながら、健康増進と交流を図ることが目的です。

会員は92歳を筆頭にのど自慢48人。毎月2回、田頭公民館で歌声を磨き、発表会のほか花見や忘年会でも、カラオケで楽しんでいきます。このように、自ら生き生きと活動する団体が、市に多くあるのは素晴らしいことですね。

市博物館は旧暦の元日に当たる2月7日、あしろ保育園の子どもたち22人を招き、ミズキ団子作りを行いました。

子どもたちは、赤、白、黄色に色付けた3色の団子を準備。「家族みんなが、かぜをひきませんように」などと願いを込めながら、ミズキの木を色鮮やかに彩りました。

この日は、現代っ子に昔あそびを楽しんでもらうと、たこ作りも行われ、子どもたちはお正月気分を味わいました。

ミズキに3色団子の色鮮やかな花が咲く



願いを込めながらミズキの木を3色の団子で彩りました



寺田小学校には200枚のぞうきんが贈られました

西根地区の寺田地区老人クラブ連合会（遠藤三太郎会長）は、地域の小中学校などにぞうきんを寄付しました。

ぞうきんは、同クラブの会員約280人が丁寧縫い上げ、514枚が完成。このうち寺田小学校には200枚が贈られました。手縫いのぞうきんは「丈夫で使いやすい」と児童たちに好評です。学校をきれいに使ってほしいと、昭和57年から寄付活動を続け、今回で25回目となりました。

温かい真心を縫い込んだぞうきんを寄付